

会議状況等報告書							報告者	森川 陽子			
会議の名称		令和5年度第3回大府市文化懇話会									
日 時		令和6年1月23日（火） 15時30分～17時00分						場所	委員会室 1		
出席者	委員	安田 文吉	加藤 武志	伴恵	間瀬 結子	越後谷 卓司	張悦	山内 副市長			
		○	欠	欠	○	欠	○	○			
	事務局	近藤 部長	田中 課長	永露 係長	小野 主事	森川 主事	小田原 館長	内藤 館長	松井 館長		
		○	○	○	○	○	○	欠	○		
傍聴者 0名											
内容											
1. あいさつ ◆間瀬結子副座長あいさつ 加藤座長が欠席のため、代理で議事を進めさせていただく。元旦から災害に見舞われ新年を祝うところではないが、本年の挨拶を申し上げる。また、本日もよろしくお願いしたい。 ◆安田文吉先生あいさつ 元旦の地震では、多大な被害がでた。特に石川県の輪島塗産業に影響があり、今後、復活させるという報道を見たが、大変だと思ひ心配している。今回の文化懇話会に関しては、今年度最後であり、忌憚なく意見が発言できる会だと思ひるので、ぜひ様々な意見を述べていただきたい。 2. 議題 (1) 令和5年度下半期事業実績について ・資料No.1－1、1－2、1－3に基づき事務局説明 〈意見交換〉 委員) 毎回、図書館や歴史民俗資料館でのイベントを楽しみにしている。年間を通して子どもから高齢者まで楽しめる事業が多く素晴らしいと思う。 「大府市文化芸術振興指針 2024」 p 5 のグラフでは、ベトナム人が急増しており、これは大府市の産業（自動車や自動車関連の部品製造など）で外国人を多く受け入れているからだと考えられる。また、この傾向は今後も続いていくと思われるが、急増する外国人とどのように共生し、文化を共有していくかが課題となる。1月21日（日）に大府市国際交流協会が「国際交流デー2023」を開催し、各国料理の試食や、ステージ（よさこい、中国舞踊、ブラジルのダンスなど）参加型の内容で盛り上がった。そのイベントではベトナム人が多く、また20代の若い参加者が多い印象だった。 大府市ではバイオリンを中心にした事業に取り組んでおり、日本人が多く参加しているが、外国人も参加できるものが来年度あればいいと思う。											

委 員) 今の意見を受けて事務局として何か意見があるか。

事務局) 多文化共生の話になるが、先週小牧市で「外国人集住都市会議」が開催され、出席してきた。会議内では、どの市町でも社会を支える働き手として外国人市民とどう共生していくかが課題として挙がっていた。その中で、外国人をつなぎ、支える人の力が大切であるという話があった。大府市も、国際交流協会と協力しながら、事業の取り組みができればよいと考えている。

委 員) バイオリンについてだが、大府市ではどのような位置付けなのか。事務局としての意見を伺いたい。

事務局) 大府市はもともと3年に1度、竹澤恭子さんの学校訪問コンサートに取り組んでいた。また、3年前に鈴木バイオリン製造の本社工房が大府市に移転され、昨年からスズキ・メソードと協定を締結している。バイオリンと言っても文化や芸術分野だけでなく、産業や教育など様々な分野で広がりを見せている。分野によっては他の課にまたがることもあるので、他課と協力していきたいと考えている。

委 員) バイオリンをキーワードとして大府市を広く知ってもらえることができることが分かった。

委 員) 報告の中でバイオリン事業が多くあるが、大府市ではまちづくりの柱のひとつにバイオリンをキーワードとしている。文化に限らず、産業ではふるさと納税など町おこしにもなっている。貴重な資源と思って、来年度もさらに精力的に取り組んでいただきたい。また、前回も発言したが、積極的にPRを行い、市内外また県外、世界へと発信して行ってほしい。

助言者) 大府市に住んでいる人が、いいと思っているところをきちんと押さえて外に発信していくようになるとよい。バイオリンは、弦楽四重奏など発展できると思う。核になるものを押さえて発展させていけるとよいと思う。市民が胸を張って自慢できるようになるとよいと思う。

委 員) 市民が自分の市の文化遺産は何かとイメージできることが大切だと思った。バラエティに富んでいて、人口規模による文化の好循環が大府市のよいところだと思う。

(2) 令和6年度事業計画について

・資料No.2に基づき事務局説明

〈意見交換〉

委 員) 来年度も計画がたくさんあり楽しみにしている。来年度は国際交流協会としてアローブで発表を行い、事業の報告ができればよいと思っている。また、イベントの際にどれくらい外国人がいて何のために来たのかなど調査し蓄積していくと、外国人の参加者を増やす新しいヒントになるかもしれない。

事務局) 子ども落語教室や今まで行ってきた事業の中では、外国籍の子どもの参加もあったが、特定はしづらい。外国人を特定するより、文化の紹介をするなど発信する側として広がっていかれたらと考える。

委 員) 先ほどの「大府市合唱祭」の話に近いが、学校現場では部活動が地域移行しており、吹奏楽や放課後のクラブなど活動がなくなってきている。文化に関わらず、スポーツもだが、計画にあげたような事業に引っ張ってこない、子どもたちが文化やス

ポーツに触れる機会がなくなってしまう。そういう視点でも取り組んでいただきたい。

事務局) p 47 読書感想画コンクールも、学校の協力が不可欠である。お互いが踏み込んで運営を行わないといけないこともある。子どもたちにとっていい形で実施していきたい。

助言者) エリアドラマ制作について、テレビ愛知は 30 年ほど前に名古屋市教育委員会と番組を制作しており、スイスのコンクールで受賞した経歴があるのでよいと思う。また、文化を発信することについて、各国のダンス（ブラジルのサンバや中国の舞踊など）をそれぞれ本場の方に発表してもらうのも良いと思う。

（３）大府市文化芸術振興指針 2024 の改訂について

・ 資料No.3、参考資料に基づき事務局説明

委 員) 指針について、大きな変更はせず、バイオリンの里の追記や分かりやすい図解などを追加することだが、流れと内容について意見を伺いたい。

委 員) 芸術について語り合う、交流するなど文化の発展のために前向きな姿勢で改訂を行っていったらいいと思う。

委 員) 計画を策定するのにもエネルギーがいる。特に市ではこのような計画が非常に多い。その中でシンプルにかつ長いスパンで考えていくという風潮もあるので、皆さんの意見を参考に策定していけたらと思う。

助言者) 18 年前、最初の策定に携わった。ありきたりではなく、市民の意見が反映されているところがこの指針のよいところだと思う。すべての人の心の和みとなるよう取り組んでもらいたい。

３．その他

【次回開催連絡】

令和 6 年度第 1 回大府市文化懇話会

令和 6 年 5 月（予定）